

平成 29 年度第 1 回我孫子市農業拠点施設指定管理者選考委員会議事録

1. 会議の名称

平成 29 年度第 1 回我孫子市農業拠点施設指定管理者選考委員会

2. 開催日時

平成 29 年 8 月 29 日（火） 14：30～16：30

3. 開催場所

我孫子市手賀沼親水広場 水の館 3 階研修室

4. 出席者

【選考委員】

上村文明委員長、新保美恵子副委員長、古内圭委員、嶺岸勝志委員、工藤文委員
（欠席）杉森敬規委員

【指定管理者 株式会社あびべじ】

大炊三枝子代表取締役、田村星寿取締役、鈴木康仁取締役

【事務局（農政課）】

丸山忠勝課長、大井一郎課長補佐、斎藤寿義主査長、小澤俊輔主任

5. 議題

- 1) 平成 29 年 4 月から 6 月までの事業報告
- 2) 評価

6. 公開・非公開の別

公開

7. 傍聴人及び発言者の数

5 名

8. 会議概要

- ・傍聴要領の決定
- ・モニタリングに係る評価基準の説明
- ・ヒアリング（事業報告と評価）

4月から6月までの指定管理者業務に対する選考委員会によるモニタリングとして、指定管理者の株式会社あびベジにヒアリングを行った。詳細は以下のとおり。

A委員) それでは、評価項目に沿って事業報告をお願いします。選考委員は質疑があれば評価項目ごとに行います。

あびベジ) 「法令順守」は、3と評価した（最高点3から0までの4段階評価）。

雇用にあたっては、社会保険労務士の指導に基づき雇用を行った。加工・飲食部門においては、営業開始前から従業員に対して衛生責任者から衛生面の研修を行った。

「農産物販売」は、3と評価した。農産物のうち市内産の割合が8割、市場からの仕入れが2割という構成比は、地産地消の観点から良好な比率と認識している。また、ポイントカードを導入した。利用実績は、6月の月次事業報告書の6ページに示している。

B委員) この利用実績に示された枚数は、ポイントカードの配付枚数か。

あびベジ) 配付枚数ではなく、ポイントが貯まって500円券として利用された枚数である。

A委員) 4月、5月はアンテナショップでの実績という理解でよいか。

あびベジ) そうである。昨年11月のアンテナショップ時代からポイントカード制を導入している。大分定着してきた。

B委員) ポイントカード以外の利用促進策として、市内のイベントでの出張販売や店内の季節感の演出など実施したことはあるか。

あびベジ) イベントとしては、5月にエンジョイ手賀沼に参加した。6月3日、4日はオープニングイベントに参加している。また、季節の野菜に関するポップを作成することで季節感の演出に取り組んだ。クレジットカードについても6月は準備中だったが、7月から導入している。

C委員) クレジットカードの利用最低価格を2千円に設定しているのは、手数料の負担を考慮したのか。

あびベジ) 客単価を上げるために設定している。現在の客単価が1300円前後なので、客単価を引き上げることで、売上増を図りたい。

「加工品販売、開発、製造」は、3と評価した。惣菜部門では、季節の野菜を多く使用したメニューを提供している。菓子部門では、地元のもち米100%の白餅や味付け餅を製造し、お客様のニーズを聞きながら大きさや味の調整を図っている。

「飲食施設」は、3と評価した。メニューのほとんどに地元農産物を使用している。また、券売機や注文、片付けの窓口に戸惑うお客様が多かったため、もともとセルフサービスということで予定していなかったホールスタッフを配置しサービスを強化した。また、顧客ニーズの把握のためにアンケートを実施し、意見と対応を毎月次事業報告書に記載している。最も意見が多かった5月のアンケートでは、良い意見としては「ロケーションが良い」「湯呑茶碗、おにぎり用陶器が良い」「お米がおいしい」などの意見があった。要望については、多くあるので記載の内容をご覧ください。

A委員) 「料理の温度がぬるい」という要望があり、対応策として「提供するまでの時間がかかりすぎるので厨房内の作業工程を見直しします」とあるが、具体的にどのような対応をしたのか。

あびベジ) 準備の段取りを見直した。当時はプレオープンしてから間もないゴールデンウィーク中ということで、そうしたご意見をいただいてしまっていたが、その後は、スタッフの習熟度が上がったこともあり、現在はそうしたご意見はいただかなくなった。

C委員) 6月の報告にも「ぬるい」という意見がある。

あびベジ) 6月前半には、改善しきれないところがあったが、現在は無くなっている。「学校給食」は、2と評価した。年度当初に設定した目標値には到達しなかったが、着実に供給している。供給にあたっては、2名のコーディネーターを配置し、学校の栄養士と調整を図っている。また、千葉県と我孫子市では農産物の旬に若干の時期のズレがあり、栄養士が千葉県の旬な時期を参考に注文したときに、対応できないことがあった。そのため、あびベジで我孫子市産農産物の旬の時期が分かる「あびこん旬彩カレンダー」を作り、各小中学校の栄養士に配付した。また、食育交流として数校ではあるが講師として生産者を派遣している。

A委員) 食育交流の頻度はどのくらい。

あびベジ) 5月12日、6月16日、7月6日に2校、10日、11日と計6回行っている。そら豆やトウモロコシの皮むき体験を、あびベジの全体会で講師に行ける生産者を募り、湖北台東小学校と布佐小学校に派遣した。「なぜトウモロコシの皮の中に虫がいるの？」など様々な質問が飛び交う楽しい授業を行っている。布佐小の児童たちから届いたお礼の手紙や写真を前室に掲出しているので是非ご覧ください。

A委員) 年間計画はどうか。

あびベジ) 昨年だと湖北台東小学校でトマトの定植や管理、収穫指導を行い、年間で4、5回。児童がいない夏休み期間中に湖北台東小学校の先生から来てほしいという要請にも対応した。収穫後は、採ったトマトで作ったトマトソースを使った

ピザパーティーや学校給食にパンを供給しているパン業者とコラボしたトマトパン作りなどが行われた。

B委員) 収支計画書では、29年度の給食部門における収入は330万円となっているが、収支状況の事業報告書に4月の実績の記載が無いのはなぜか。

あびベジ) アンテナショップでは実施していたが、4月20日から指定管理業務を開始しており、4月分は指定管理業務の実績には含めていない。

「イベント」は、2と評価した。現在まで主体のイベントは実施していないが、計画している。5月のエンジョイ手賀沼や6月のオープニングイベントに参加した。

「情報発信」は、3と評価した。ホームページやフェイスブック、イベント等で情報発信を行い、実績は6月の月次事業報告書14ページに記載している。

B委員) あびベジが発行している「あびこん通信」の状況を教えてほしい。

あびベジ) 6月から毎月発行しているもので、直売所と加工部門、米舞亭の総合的な情報発信のために作成している。旬な野菜の情報やイベントの告知、加工室や米舞亭の新メニュー、行政と連携して実施した日秀新田市民農園でのじゃがいも掘り体験のレポートなどを載せている。

「経費縮減」は、2と評価した。6月はオープン月で、仕入れを多くしたためにロスが発生したり、スタッフを多く採用したため、人件費が膨らんでいる。また、不要な物を購入しないように、各部門のスタッフが備品を購入する際は、役員に申請書を提出させて内容を確認してから購入させている。

A委員) 野菜はロスが出やすい商品だが、ロスの管理はどのように行っているのか。

あびベジ) 仕入れ品について、季節で日持ちは異なるが、残るものは段階的に最大で原価近くまで値下げを行いロスを出さないように努めている。それでも残るものは、カットして使えると判断した部分については販売している。破棄したものは、何を、いつ、どれだけ破棄したのか記録を残している。

D委員) 感想になるが、商品の充実だけでなく、食育に関連して、食育事業の子どもたちからの感想や通路に掲示している子どもが喜ぶクイズ等はとても良いと思う。

あびベジ) アンテナショップでの経験からお客様がどういうものを求めているかは多少なり認識している。集客ということもあるが、農業者として消費者に農業をもっと理解していただきたいという思いがある。農業に対する知識の発信は、他の直売所では少ないので、引き続き実施していきたい。

C委員) アンテナショップ時代は品切れが割とあった。水の館に移ってからは品切れが無くなったような印象があるが、生産者に追荷の連絡等を行っているのか。

あびベジ) メール配信システムを利用し、その日の売り上げ状況を連絡している。その情報は生産者が翌日に納品量を判断する際の材料になっている。また、お話いただいたとおり、昼の時点で欠品しそうな農産物があれば追荷を依頼している。

市域東側に生産者が多くいるなかで、直売所が市の中心地に近づき、追荷をしやすくなったことも欠品が少なくなった要因だと思われる。

E委員) ロスに関して、加工室で利用はしないのか。

あびべじ) 加工室のコンセプトとして、基本的には地元の農産物を使用するということがあるので、仕入れは一部のみ使用している。ただし、残ったものを使うのは良くないという見方もあり、課題である。なるべくは、ロス管理の状況を踏まえて、ロスが出ないように努めていきたい。

A委員) 我孫子はお米の産地だが、お米の利用はどうか。

あびべじ) 米舞亭で使用しているお米は、我孫子市産のお米を100%使用している。農産物も旬の時期ものは我孫子市産を用いている。

A委員) 4月から指定管理業務が始まって、登録農家の数の推移は。

あびべじ) アンテナショップでは45軒だったが、リニューアルオープンに向けて農家説明会を行ってきた結果、現在は98軒となっている。先ほどの欠品が無いということにも繋がっている。

A委員) それでは次の利用者への対応業務に関する項目の報告をお願いします。

あびべじ) 「市民平等」は、2と評価した。農家には、事前に登録しないで、オープン後の様子を見てから出荷を考えている農家がいるので、そういう農家に対して個別に声掛けを行っている。農家以外の業者に対しては、説明会を開き対応した。また、消費者に対しては、直売所の配架台間の通路幅を十分にとったり、レストランでは子供用の食器や椅子などを用意している。

「ニーズ把握」は、3と評価した。顧客ニーズの把握のためにアンケートを直売所とレストランの両方で実施し、可能な限り対応している。農家に対しては、出荷者ニーズの把握を兼ねた全体会を毎月1回実施しており、売れ行き状況や生産依頼、値段付けについてなど売上アップに向けた情報提供を行っている。また、対岸の道の駅しょうなんの価格調査を行い、その情報を生産者に伝え、価格設定の参考になるように努めている。

「苦情対応」は、2と評価した。事業計画書に記載した苦情の対応フローに基づき、発生した事案については朝礼や昼礼で情報共有し、苦情が発生した際は個人で判断せずに店長に相談、店長で判断が難しいときは役員に相談、ケースによっては農政課に相談ということで行っている。

A委員) これまでにあった具体的な苦情の内容は。

あびべじ) 委託商品について、異物混入の苦情があった。委託業者に注意を行い、お客様に対しては直売所からお詫びをした。

A委員) 苦情を受けてから処理までの顛末は記録しているか。

あびべじ) 記録簿を付けている。

「利用料金」は、3と評価した。6月の月次事業報告書に利用料金の徴収表を

添付した。

事務局) 利用料金徴収表については、出荷者の個人情報が含まれているため、委員に配付した資料からは除いている。

あびベジ) 農政課に提出しているとおり、パソコンでデータ管理し、適切に処理している。

A委員) 続いて、施設及び設備等の維持管理に関する業務について。

あびベジ) 「危機管理」は、2 と評価した。消防及び震災等の非難対応マニュアルや緊急時の連絡網を作成している。6月の月次事業報告書の18ページに添付している。

A委員) 今日ミサイルが飛んできて、Jアラートが鳴っていたが、そういう場合の対応も考えていかなければならないのかもしれない。

あびベジ) 「衛生管理」は、3 と評価した。日常作業のなかでは消毒を徹底し、スタッフの健康管理については、6月までは自己申告制をとっていたが、現在は健康管理チェック表を作成し対応している。

A委員) 先日もO-157のニュースを見たが、衛生管理は、個人的には満点としないで、常に万全を期して改善し続けていく姿勢であってほしい。

あびベジ) 自分たちだけでなく、委託業者にも十分に徹底していきたい。

A委員) 十分にやっているという意識では無くて、常にまだ足りないのではという意識が大切なのではないかと思う。

あびベジ) 承知した。

D委員) 仰る通り、念には念を入れて取り組んでいただきたい。

あびベジ) 「備品管理」は、2 と評価した。指定管理を受けた以降に購入したものについて、6月には備品台帳が整っていなかったが、現在は整理できている。

A委員) 備品と消耗品の線引きは。

あびベジ) 基本的には金額としているが、用途に応じて決定している。

A委員) 備品にレッテルを貼ったりは。

あびベジ) 各事業部ごとに管理しており、帳簿にはサイズを記載し、どれを指すか分かるようにしているが、鍋等の作業に支障が出るものもあるので、レッテルを貼ってはいない。

「清掃」は、3 と評価した。清掃専門のスタッフを雇用し、オープン前の床や配架台、窓の掃除を行っている。また、清掃マニュアルを作成している。加工室及び厨房のなかは、スタッフが作業前と後で適切に行っている。

B委員) 「危機管理」について聞きそびれてしまったが、事業計画書にあった機械警備についてはどのような状況か。

あびベジ) 水の館全体の機械警備となっている。バックヤード入口に指定管理業務対象範囲のスイッチがあり、その部分は責任をもって行っている。

A委員) 最後に、その他については。

あびベジ) 「市民の雇用、市内業者の活用」は、3 と評価した。スタッフの内、市内雇用者

が75%、業者については51%となっている。

「人材配置」は、2と評価した。直売部門は売り場とバックヤード、飲食部門は厨房とフロア、加工部門は惣菜と菓子があり、計画した採用人員のなかで確保し、シフト制で回している。

A委員) 契約は期間限定契約か。

あびベジ) パートは6か月契約。問題が無ければ1年まで更新となる。1年後に見直しを行い、再契約という形にしている。

B委員) 56名の職員がいるという理解でよいか。

あびベジ) 指定管理業務以外で農園業務があり、4名雇っているので会社全体では60名。その内、正社員は店長とシェフの2名。残りの58名は全員パートである。

B委員) オープン時など相当混雑しており大変なときもあったかと思うが、計画していた人員配置どおりなのか、それとも変更し対応したことはあったのか。

あびベジ) 事業計画では想定していなかった仕事が発生し、当初は役員が対応していたが、いつまでもそういうわけにもいかず、追加して雇用した方もいる。また、初めに雇った職員だけではシフト調整がうまくいかず、増員をしている。

「人材育成」は、2と評価した。接客マニュアルを作成し、全スタッフに配付している。オープン当初、レストランでは、シェフの代わりが務まる人員がいないことからシェフの負担が大きかったため、シェフの右腕になるサブ責任者候補を採用し、現在研修中である。

「個人情報」は、3と評価した。個人情報の入ったパソコンは取扱者を限定し、他の人は触らないよう徹底している。ペーパー類の情報は、施錠できる収納で管理し、持ち出しはしないようにしている。

A委員) USBについてはどうか。

あびベジ) USBに個人情報を入れることはしていない。持ち出さないことを徹底している。

A委員) 特定個人情報については。

あびベジ) 取扱者を限定しているパソコン内に入っている。

B委員) パソコンはパスワードなどで保護しているのか。

あびベジ) 取扱者以外は知らないパスワードで保護している。

「連携体制」は、3と評価した。出荷者は月1回の全体会で情報交換を行っている。また、あびこ型「地産地消」推進協議会と連携イベントや農力発見プロジェクトの活動に取り組んでいる。

D委員) 現在の項目とは逸れるが、知り合いでレジの方の話し方が横柄に感じたという方がいたので、気を付けていただきたい。

あびベジ) スタッフ教育に反映させていきたい。

A委員) 最後に各委員から一言ずつ意見をいただきたい。

B委員) 各部門で着実に取り組んでいただけていると思う。特に印象に残ったのは、学

校に赴いての食育事業で、利益に直結しにくいことと思うが、我孫子市の子どもたちにとってはとても大切な事業だと思うので、これからもぜひ続けてほしい。また、ご紹介があった「あびこん通信」は、とても心の通った良い情報発信だと思う。劇的に利用者増加に繋がるものではないかもしれないが、息の長い取り組みで少しずつ我孫子産農産物のファンを増やすものとする。

D委員) 6月に開始したばかりにも関わらず、個人的に想定していたよりも盛況で、素晴らしいという印象を持っている。継続できるかは今後の努力次第だと思うが、今日のヒアリングでその努力が期待できるものと感じているので、引き続き頑張ってください。

C委員) 主に直売所を利用させていただいているが、アンテナショップ時代と比べて売り場面積が広くなり、市内業者の委託販売が充実したと感じている。ふるさと産品や福祉作業所の商品も揃っており、農産物だけでなく、市内のそうした商品も購入出来るという点でとても良くなった。あとは、周辺施設とのタイアップやイベントを利用した売り出しをこれから実施していくことを期待している。

E委員) オープンしたばかりで、レストランでの「ぬるい」といった意見は仕方ないことだと思うので、徐々に改善していければ良いと思う。また、我孫子はイベントがとても多い街なので、積極的に参加して宣伝していただきたい。また、ポイントカードの利用がとても多く、アンテナショップ時代のお客様に引き続き利用いただいている証拠で、よい傾向だと思う。さらに利用数が増えるよう頑張してほしい。

A委員) あびベジが農家と消費者を繋げるという役割、原点を強く理解しているなど感じた。ぜひ、今後も継続して行ってほしい。また、それには市民が参加するイベントを実施すること、参加することが重要だと思う。先ほどの食育の話は、まさに農家と消費者を繋げる活動だなと思い話を聞いていた。今回は、まだ4月から6月までの評価だが、年間を通して事業計画の数値を達成できるよう頑張ってください。今回は非公募という方法で選定しており、アンテナショップからやってきた姿勢を市民の皆さんに知っていただくということで会議を公開して行った。我々選考委員も勉強しなければならないとともに、あびベジの皆さんにも頑張ってくださいと思う。今日は有難うございました。

(あびベジ退出。選考委員会の評価を集計し、総合評価をまとめた。)

事務局) 最後に総評をお願いしたい。今後のために、管理運営のアドバイス等もあれば。

A委員) 経営はもちろん大切だが、あびベジが本来の趣旨を良く理解していると思った。農家と消費者を繋ぎたいという思いを強く感じた。特に食育での学校に赴いて専門家の農家から児童に直接指導を行うのはとても良い取り組みだと思う。ただ

し、E委員が言ったようにイベントにもっと積極的に出たり、自ら実施することにより、市民と交流の機会を多く設けることが、さらに趣旨に沿っていくことになると思うので、イベント活動を増やしていただきたい。本日は、第1回ということで、事業者にきちんとやらなくてはならないということ意識してもらおうことや選考委員会の思いを伝えるためにも、意識的に時間を多くとった。委員から他に何かあるか。

D委員) 我孫子の農業のシンボリックな役割を担うことがこの直売所の在るべき姿だと思うので、農政課にはしっかりしたサポートをお願いしたい。

A委員) 本日はお忙しいなかご出席いただきましてありがとうございます。以上をもちまして平成29年度第1回農業拠点施設指定管理者選考委員会を終了します。